

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	
都道府県名	大阪府

【 】

*重点をおいた観点にチェックすること

・学校の概要

東大阪市立長瀬北小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数	
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	25	
児童数	48	48	59	41	48	49	2	295		

・研究の概要

(1) 研究主題

《 自らの生き方をつくる子》 ◇ 認め合い、高め合う、学びの集団づくり ◇ 一人ひとりの学びの確かな支援（自己学習力の育成）
--

(2) 研究主題設定の趣旨

「ゆとり」のある教育環境のもとで「生きる力」の育成を図ることを目的とする教育改革の中で、学校は一人ひとりの個性を生かした特色ある教育活動を展開することが求められている。そこで、本研究では、基礎学力の向上を図り、子ども自らが主体的に学ぶ力の育成をめざして「学びの集団づくり」「自己学習力の育成」の2点について子どもの具体的な活動や探究的な学習活動を展開してきている。その中で、特色ある教育課程の編成、各教科や総合的な学習の時間の指導における少人数授業等の多様な指導形態・指導方法の在り方を模索しつつ、豊かな人権感覚と確かな学力の育つ授業の創造をめざし取り組みを進めてきている。

・研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

① 研究テーマ

平成15年度 個の学力の向上を支援する評価の工夫

↓ 全学年において算数科を中心に少人数授業等を活用した授業内容・授業方法・評価の在り方についての研究を行なう <仮説> 学力の実態や個性に応じた指導方法の工夫・改善、評価のあり方を具体化し、指導と評価の一体化を図ることで学力の向上が図れる。

授業改革に向けての共通理解

- ・本校の子どもたちにつけたい学力とは「生きる力としての学力」と考える。
- ・「生きる力」につながる『学力』を、
学力の基礎としての「自尊感情」「共生感覚」、
学ぶ力としての「自己学習力」「自己表現力」「コミュニケーション力」、
教科の学力としての「知識・理解・技能」「思考力」「関心・意欲・態度」
の3つの総合的な学力と捉える。
- ・授業改革の推進は「学びの集団づくり」と「自己学習力の育成」を2つを柱として取り組む。
- ・特に、基礎基本の定着が難しい児童の支援を大切にする。
- ・地域の人材を活用し、家庭・地域・学校の三者協働の学びの創造をめざす。

具体的な研究体制

- ・少人数授業や総合的な学習の時間等の計画・実践・結果等について協議・連絡・報告するシステムとして「新教育課程プロジェクト2003」を研究体制として校務分掌に位置づける。
- ・少人数授業についてはそのねらいや主旨について全教職員の共通理解を図っていく中で、全ての学年・学級で取り組んでいく協力体制をつくり、学級分割や学年合同授業等の学級の枠を超えた少人数授業、

- 課題別学習・コース別選択学習等の効果的な指導形態の在り方を追究する。
- ・加配職員を授業改革推進委員として位置づけ、研究推進役としての役割を担う。
- ・算数科を中心として、学級の枠を超えた少人数での課題別学習等の個に応じたきめ細かな指導の展開や個の学力の向上を支援する評価の工夫を行う。

(2) 研究の実際

子どもたちの学びの力を育て、指導に生きる評価のあり方を実践の中で具体化し、指導の改善を図る。具体的には、次の2つの観点から評価方法の改善を図っていった。

- ①. 子ども一人ひとりの「主体的に学ぶ力」を育てるための評価のあり方
 - (ア) 子どもが自分の学習目標への到達度を知ることができ、自から学習内容や学習方法を選べるための自己評価
 - (イ) 子どもが自分の学習成果や個人的な習熟度の伸びを意識し「学ぶ意欲」が高まる自己評価や他者評価
 - (ウ) <自己選択(自己決定) 選択学習 自己の選択に対する評価>のサイクルによる選択力を育てる自己評価や他者評価
- ②. 子ども一人ひとりの「主体的な学び」を支援するための、授業改善や教材開発に生かせる評価のあり方
 - (ア) 子ども一人ひとりの学習状況を捉え、個に応じた学習過程の計画や教材開発に生かせる評価
 - (イ) 指導の成果や効果を知り、次の授業改善の視点が得られるような評価
 - (ウ) 子ども一人ひとりの意欲や関心、「主体的な学び」の様子、個人の学力の伸びが捉えられる評価
 - (エ) 相互の学び合いの様子など、学習集団づくりに生きる評価

上にあげた観点から、単元全体や各時間の評価を具体化していく。その際に次の点を考慮する。

 - (ア) 到達度目標や評価基準(規準)を明確にし、絶対評価を取り入れていく。
 - (イ) 一人ひとりに応じた多様な評価を用意する。
 - (ウ) 自分の選択や学習に対してのふりかえりの機会を持つ。
 - (エ) 効果の測定を単元の指導の中で位置づける。

③. 個の学力の向上を支援する評価の工夫

今年度は個の学力の向上を支援する評価(指導と評価の一体化)を確立する手だてとして、算数科においても「ふりかえりカードの充実」と「ポートフォリオの活用」の2点を中心に実践していった。

◎ふりかえりカードの充実

学びの軌跡を残すために、課題解決に向けた思考過程や学習後のふりかえりを書かせた。そのねらいは、子ども自身が、自分の学習をふりかえり、自己評価して、次の学習につなげていくことである。またそうすることによって、毎時間の子どもの成長を捉え、次の支援に生かすことができた。

◎ポートフォリオの活用

「いつ、何を、どのようにふりかえらせるか」「ふりかえりをどのように生かしていくか」について話し合い、基本的な学習過程の中にポートフォリオの活用を意図的に位置づけ指導していった。特に、学びの軌跡として残していった元ポートフォリオを使って、自分を発信するための凝縮ポートフォリオをつくる学習の中で、子ども一人ひとりが自分の学習をふりかえることによって、学習内容の定着を図ることができた。

④研究発表を授業改革を推進する絶好の機会ととらえ、計画的に研究を推進していった。

- ・学力向上フロンティア事業・中河内地区公開授業
 - (2年「たし算・ひき算のひっ算」、6年「平均とその利用」)
 - 6月5日(木)於：長瀬北小学校 対象：中河内の各学校、各市教委、府教委
- ・学力向上フロンティア事業・公開授業(5年「面積」)
 - 10月23日(木)於：長瀬北小学校 対象：府下の各学校、各市教委、府教委
 - 一人ひとりに確かな学力をつける授業の創造
 - ～少人数授業など個に応じた多様な支援・指導のあり方を探る～
- ・文部科学省人権教育指定校発表会(1年「ひき算を使って」、5年「分数」)
 - 11月26日(水)於：長瀬北小学校 対象：府内・府外の各学校、各市教委、府教委
 - 豊かな人権感覚と生きる力としての学力が育つ授業の創造
 - ～認め合い、高め合う、学びの集団づくり～
 - ～一人ひとりの学びの確かな支援<自己学習力の育成>～

(3) 研究の成果と課題

①研究の成果

(ア)自己選択し学べる複線化の学習過程の確立

自己選択学習を取り入れた【単元の基本的な学習過程】と【一時間の基本的な学習過程】を確立することで、全学年が研究主題に沿った内容で少人数授業に取り組むことができた。

アンケートでは、9割以上の子どもが、自己選択の学習は「よい」と答えています。

今の自分の課題を意識し、自己選択する機会を設けることで、学習に向かう意欲が高まってきている。

また、補充的学習で理解を深めるなど、自分にあった学習を選ぶ力が育ってきている。

<子どもの声>

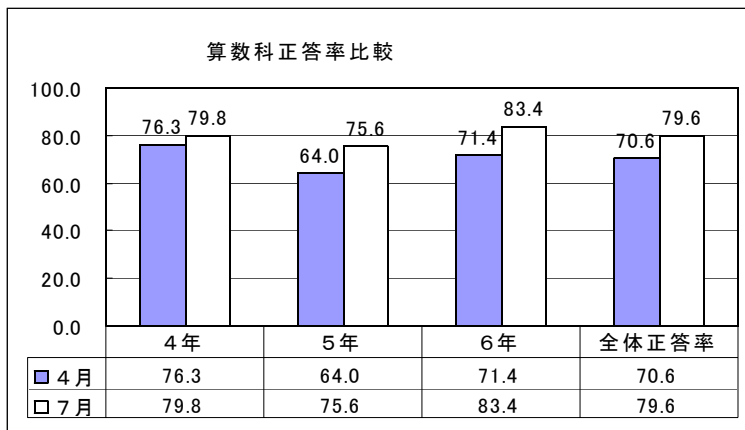
- ・自分に合うコースを選べるから良かった。
- ・自分に足りないところはどこか考えるようになった。
- ・いろいろな勉強の仕方が選べるからよい。
- ・自分にぴったりのコースを選んで、計算がわかったからよかった。

(イ) 自己学習力の育成に向けて

<少人数授業>

- 一人ひとりの確かな学力向上をめざし小・中の連携も図りながら少人数授業を実施することで、
- ・自己選択の機会をつくることで自分の力を知り、自分の課題を意識しやすく、意欲的に取り組もうとする児童が多く見られるようになった。
 - ・一人ひとりに応じたペースで学習が進めやすいので、学習に一定の定着が見られた。
 - ・算数に対して苦手意識を持っている子が、楽しんで学習に取り組み、達成感を感じる事ができた。

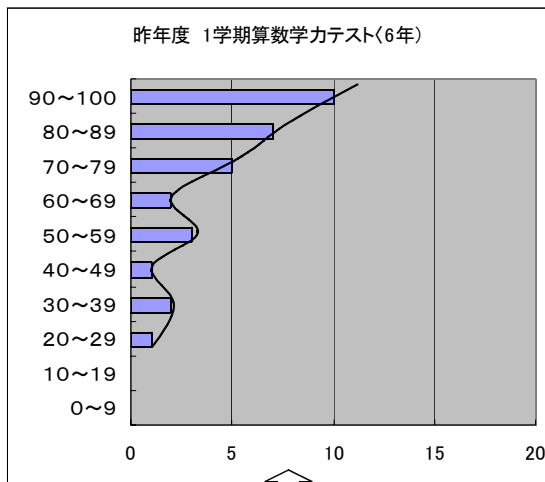
等の成果があり、下記のような結果が得られた。



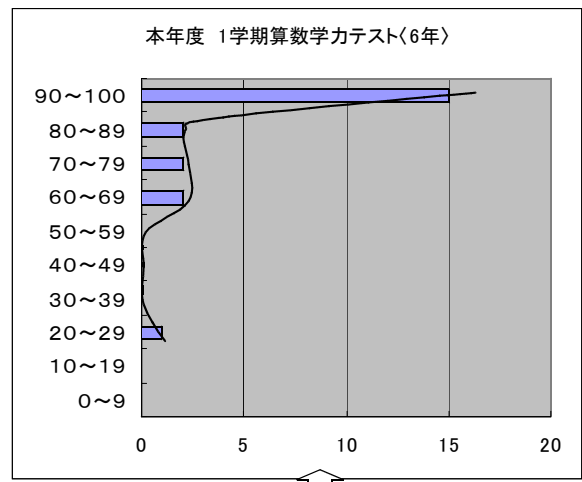
個に応じた、きめ細やかな指導が可能なため、算数の少人数授業実施後同じ領域の問題の正答率が上がった。

■ 実施前の正答率
□ 実施後の正答率

今の自分の課題をみつけ、学習内容や学習方法などを自己選択して学習することで、自己学習力を身につけられるよう、多様な支援を行っている。



上のグラフは昨年度の算数の得点分布です。得点の二極分化が見られません。



少人数授業の取り組みを進めることで、得点下位グループの人数が減少してきています。

②. 今後の課題

少人数授業を通して

- ・認め合い、高め合おうとする「学びの集団」づくりが授業改革の根底にあり、算数科だけでなく、全ての教科や学習活動において実践していかなければならない。

- ・少人数授業等の学習準備には多くの時間が必要である。また、授業内容や進め方については教員間の緊密な連携が大切であり、そのための時間確保が必要である
- ・少人数授業では授業時間を延長することが多く、その意味での授業内容や指導方法の更なる工夫改善が必要である。
- ・自己学習のためのヒントカードを、より子ども個々の実態に合ったものに改善していく必要がある。
- ・子どもがコースを自己選択するとき、自分のめあてに合ったコースを選択するための支援の仕方が難しい。

取り組み全体を通して

- ・中学校においても少人数授業を行っているが、小学校での実践との間に段差がある。子どもたちが中学校に行っても違和感なく学習に入れるように、小中の連携を更に深めていく必要がある。
- ・学力の向上と集団づくりの成否には相関関係があり、「総合的な学力」（自尊感情や共生感覚、知識・理解・技能等の実態的な学力、コミュニケーション力・表現力・探求力等の機能的な学力の3つを総合したもの）の育成が必要である。
- ・保護者への説明責任を果たし、少人数授業やその他の授業改善の取り組みに対し、より一層の理解を得る必要がある。

(4) 研究成果の普及の方策

本校の研究が子どもたちの実態に合致しているのか、その方向性はどうか等、実践をより確かなものにしていくためにもより多くの方の意見に耳を傾ける必要がある。また、一校でも多くの仲間と共に研究し、互いの取り組みを交流することで我々の実践を深めていくことができると確信している。そのために次のように積極的に普及に努めている。

- ・研究発表等様々な機会をとらえて授業を公開する。
- ・他校からの学校訪問を積極的に受け入れ、研究成果を発信すると共に交流の場を持つ。
- ・他校の研究発表会等に参加し、交流する中で本校の取り組みについても発信する。
- ・学校開放週間（授業公開）等を活用し、地域や保護者の取り組みへの理解や協力を得る
- ・研究紀要を発刊し、市内外へ情報を発信する。
- ・インターネットのホームページを使って情報を発信する。

(5) その他（その他、特色ある取組がある場合に記入）

- ・金岡中学校区の学力実態の考察に基づき、三校で取り組まれている毎朝の読書タイム。
- ・授業時間の弾力的運用としてのロングタイム制の活用。
- ・地域との双方向でのつながりを創造することをコンセプトに、“ふれ愛ピースフルDay”（地域と共に平和を考える日）や地域と共に創る運動会、“ちょっとよってこDay”（学校開放週間）等の「開かれた学校づくり」の取り組み。また、各教科や人権総合学習での“ふれ愛ティーチャー”の活用。
- ・学期に1回の家庭学習強化期間（基礎基本の定着に課題のある子について、家庭訪問をしながら家庭学習の定着を図る。2週間程度）
- ・空き教室を活用し、自ら学ぶ力の育成をめざした発展的プリント学習。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|---|--|--|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級以下 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| | <input type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input type="checkbox"/> 理科 |
| | <input type="checkbox"/> 生活 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

本校は、学校全体としての指導体制のもと、全学年において算数科を中心に少人数授業等を活用した授業内容・授業方法・評価の在り方について研究を実施している。

特に、「学びの集団づくり」や「自己学習力の育成」の2点に視点をあてた具体的な学習活動の創造をめざし、子どもたちの学びの力を育て、指導に生きる評価の在り方を実践の中で具現化しようとしている。